

第 1 章

県民交流広場の取組事例

～ 地域コミュニティ・アワード出展地区の取組 ～

地域づくりの
課題と目標

徳井、南八幡の2地域から構成されている成徳地区は、平成18年に、灘区役所を中心に新しいまちが復興しました。新しい住民が増加し、成徳小学校の児童数も灘区内で一番多い約1,000名になっています。各自治会、各種団体では、旧住民主導で事業が活発に行われていますが、両地域の交流、新旧住民の交流は進んでいません。新しい地域の担い手の発掘も求められています。

県民交流広場事業での新しい取り組みで、子どもたちと一緒に、より広い交流の輪が広がってきています。

これらの活動をいかに継続し深めていくかが、今後の課題です。

(1) まち・むら交流

平成22年より、篠山市城南まちづくり協議会と、子どもたちと一緒に、田植え、生き物観察、黒枝豆作り、草取り、でかんしょ祭り、少年野球交流戦、稲刈りなどで交流をしています。

皆で収穫したお米は地域のブランド米「成徳米」として、10月に開催する「成徳ふれあいマルシェ」で地域のシンボルとして、皆さんにお披露目、来場された多くの方に活動をアピールすることができました。地域のお店の協力もあり、世代を超えて広範囲の参加者があり、物を介して身近に交流することができました。

また、子どもたちはこの交流で、田舎の自然の中で、まちではできない有意義な体験、また農家の大変さ、食べ物を大切にすることを実感することができました。



【まち・むら交流】

(2) 健康チア体操 ルミナス・スターズ



【健康チア体操】

平成20年から活動を開始、現在、最高齢90歳、平均76歳の12名。アメリカンフットボールのチアリーダーの号令、「ホワイトソング」「YMCA」「きよしのズンドコ節」の音楽に合わせて、みんなの動作が揃うように、お互いに声を掛け合い、助けあって、楽しく練習しています。

10月の「成徳ふれあいマルシェ」・11月の「城南地区サークル発表会」等に出演し、みなさんに喜んでいただきました。機会があれば、いつも皆さんが元気になるよう応援にいきます。それを励みに練習しています。

これまでの
成果や
今後の予定

「健康チア体操」「ふれあい健康麻雀」「コーラス」「子育てサークル」などセンターでの活動は、認知度も広がり、参加者も増加、多くの世代で活発になってきています。

「まち・むら交流」は、ブランド米「成徳米」を基にして活動することで、自主参加も増えてきています。

昨年からはまった「ふれあい野菜市」など物を介しての交流で、より長く持続する身近な活動になるようにしていきたいです。

拠点施設



市立成徳地域福祉センター

《主な整備内容:改修》

- 玄関段差の解消やドア改修等によるバリアフリー化
- 和室を洋室化し活動コーナー拡張、収納スペース、空調機の整備
- 備品の整備(机・椅子、パソコン、プリンターなど)

連絡先

成徳ふれあいのまちづくり協議会
TEL / FAX 078-822-6211

地域づくりの
課題と目標

志里池地区は、古い歴史をもち、昔からの町並みと工場地域が混在した面積 0.5k㎡のまちです。近年、高齢化が進み 65 歳以上の方が約 30%と高齢化率が高く、また単身世帯が急激に増えています。

老人が多いにもかかわらず老人会の世話をする人がいないため、活動中止状態にあります。老若男女の方々のコミュニケーションを図ることが必要です。

街の古い歴史と住工混在地域の特色を生かし、住民間の交流と安全、安心の美しいまちづくり、文化活動による知識と技能の交流とコミュニケーションの拡大を図る事を目標としています。

(1) 真野の里 交流学級 パソコン教室

地域からパソコン教室開設要望が多数あり、開設に当たりいろいろ検討の結果、地域の中学生との交流を深めることも考え、近隣の長田中学校へ相談に伺い協力依頼しましたところ、長田中学校校長先生からぜひとも協力しましょうとご回答をいただき、志里池地域福祉センターにて開催する事を決定。平成 21 年 8 月から毎月第 2・4 土曜日午前 10 時～正午まで、長田中学校生徒さん 5～



【パソコン教室】

8 名が来られ、地域住民に対しマンツーマンで指導していただいています。現在までに 62 回実施しています。

ポスターや年賀はがき等はもちろん、自分で撮った写真を取り込み、部分編集やインターネット及び簡単な表計算が出来るようになってきました。

今後は、長田中学校の生徒さんから指導していただくことはもちろんですが、地域の方々が、初心者への指導をしていただく事を期待しています。

(2) 真野の里 交流学級 地域の歴史勉強会

パソコン教室で、長田中学校総合文化部の生徒さんからパソコン使用の教授をしていただいたお礼として、パソコン授業の後、地域の方より地域の歴史や史跡及び、企業に長年勤めあげられて、これらの技術や技能等、生徒さんに分かりやすく講義し、地域を理解する勉強会を行っています。

講義だけではわかり難い面も多々ある事から、地域の歴史史跡散策を 2 回/年や、企業にお願いし見学会等を実施して理解を深めています。

長田中学校生徒さん、地域の方々、共に地域歴史散策を実施することにより、近くに居ても分からなかった事を目の当たりにして、地域の歴史、地域の良さを確認理解し、他地域の方、他地域の方へ幅広くお話しできるようになることを期待しています。



【真野の里交流学級 歴史散策】

これまでの
成果や
今後の予定

県民交流広場事業を起点として、今まで活動していなかった活動をみんなで協力し、以前になかった活性化が図られてきました。

今までになかった中学生との交流も順調に図れ、地域の方々も中学校の体育祭、文化祭、健全育成パレード等の行事に気楽に観覧参加、中学生は地域のもちつき大会、地域清掃活動等に参加してくれて、久しくコミュニケーションが図れるようになりました。

今後は、小学生、高校生とも一層の交流に取り組める活動を検討しています。

拠点施設



市立志里池地域福祉センター

《主な整備内容:改修》

- 1階の和室・ホール一体化により、1階に地域活動室を設置
- バリアフリー化(随所にある段差を解消)
- 1階のトイレを縮小し、調理スペースを確保

連絡先

志里池ふれあいのまちづくり協議会
TEL / FAX 078-651-9936

地域づくりの 課題と目標

長洲地区は昔から居住している、いわゆる“地の人”が多い所です。町会や老人クラブを中心として、催しや神社の秋祭り等が比較的活発に行われていましたが、参加者の多くは団体の役員が目立ち、地域住民の幅広い世代の参加は低迷化していました。

10年近く前から新築マンション・新築戸建て住宅の建築があり、他地区よりの転入者との新旧住民の交流は少なかったため、その交流を活発にするのが目標です。

(1) 日常 5つの集い会活動



【絵画の集い】

「ビデオ鑑賞の会」「手芸の会」「カラオケの会」「絵画の会」「囲碁・将棋の会」の5つです。名称も何々教室とせず、親しみやすいように集いの会としました。

毎月、開催日の曜日と時間は決まっています。毎月、開催予定日時のポスターを15カ所に貼付しますが、それよりも参加者の「口コミ」によるお誘いで、集いの会への参加人数は確実に増えてきています。(年間参加延人数 768名)

特に、月2回開催している「絵画の会」では、小学生が下校後に絵を描きに来てくれる姿が目立ちます。

(2) イベント ふれあいフェスティバル活動

年1回開催しています。広場推進委員会が中心になり、企画、準備、実施しています。委員会の8団体には2つの小学校のPTA役員がメンバーに入っており、若いお母さんたちが新しいアイデアを出してくれるので、マンネリ化せず助かります。

各種模擬店、おじいちゃんの手作りおもちゃ、遊びのコーナー、健康チェック、地元中学校吹奏楽部の演奏、県警の白バイとマスコット人形も出演してくれて、大賑わいでした。

当日の来場者は約1200名もあり、その対応をするスタッフも各種団体の組織から計120名もの人がボランティアで地域のイベントを盛り上げてくれています。



【ふれあいフェスティバル】

これまでの 成果や 今後の予定

平成21年度に事業承認された広場として、4年目になります。広場の交流は確実に広がっています。5つの集いの参加人数は年々増加しています。青パト防犯活動には民間企業も加わってくれました。

また、イベントでお世話するスタッフは100名を超え、多数の協力者のお陰で、1200名もの来場者のある催しを成功させることができています。

今後、5年の活動運営助成期間が経過した、6年目以降の交流広場活動をどのようにしていくか、来年度、具体的に考えていきます。

拠点施設



長洲連合福祉会館

《主な整備内容:建物付属の更新・活動備品の整備》

- 空調設備・カーペット更新、窓の防音サッシ取り付け
- 青パト(軽4輪貨物車・付属設備含む)の取得
- 映像音響システムの整備(プロジェクター・テレビ・ワイヤレスアンテナ・他)

連絡先

長洲地区県民交流広場 事務局 梶原 啓司
TEL / FAX 06-6401-6241
E-mail : Saxophone1218414@bcb.bai.ne.jp

地域づくりの
課題と目標

当地区の課題は、進行する高齢化と地理的なブロック化による地域間及び世代間の交流の低下です。地域の団体による世代ふれあいや敬老の集い、盆踊り、運動会、文化祭などの行事、更にカラオケや踊りその他のグループ活動は地域間交流に大いに貢献していますが、個人のレベルでは必ずしも十分とは言えません。

そこで当広場は、色々な世代が自主的に活動を計画し、実行し易い場を提供する事を目標に活動を推進しています。

(1) 地域間の人ふれあいを推進(餅つき大会)



【世代ふれあい餅つき大会】

もともと当広場の開所記念として始めたイベントで、必要な杵や臼や蒸し器などは社協の分区からお借りしました。近くに大きなマンションがあり参加者が年々増加しています。

平成23年度からは、広場の近隣である2つの自治会、老人会と子供会との共同運営とし、実行の人員も大幅に増えてきました。名称も「世代ふれあい餅つき大会」とし、社協の分区からの支援も頂けるようになりました。何より、子どもたちの参加で両親も参加し、餅つきを体験・実感できるのと同時に世代間の交流の場としても役立っています。

(2) 同好会・クラブの育成(オカリナ グループ)

開所当初は古ぼけた卓球台しかなかったので、卓球や囲碁・将棋の小グループから始まりましたが、その後少しずつ増えて現在はコーラス(地域とPTAの2つ)、卓球(2つ)、オカリナ(写真右)、リトミック、ハーモニカ、太極拳(2つ)、ヨーガ、将棋G、パソコン勉強会他などの定期的な活動グループに発展し、参加者も周辺地域に拡大しています。

不定期の個人グループによる食事会や母子によるXマス会などの使用も増大。同時にふれあい喫茶も利用者が急増しています。



【オカリナグループ】

これまでの
成果や
今後の予定

地域の各団体に推進委員会のメンバーとして参加して頂いて船出しました。「交流広場」はなじみがなく、毎月広報パンフレットを作成し、周辺地域に配布して認知度を上げる努力をしました。認知度は上記(1)、(2)のように加速的に上がり、利用者の世代も当初の喫茶利用主体からグループ活動の比重が高まり、全体として利用者の平均年齢は低下しています。

当初の「くすのき会館」だけでは利用希望者を十分に収容できなくなり、遊休化している隣接の自治会の集会所を借り受け、個展の開催や他の趣味のグループの利用を推進し、より多くの世代の利用の場としていきたいと考えています。

拠点施設



くすのき会館

《主な整備内容:増築》

倉庫であった旧ウイルキンソン記念館を自治会より借用し、何も無かった1、2階を改装
 ○1Fはホール、ピアノのある多目的室、厨房、男女及び身体障害者用トイレを設置。空調設備、インターネット、TVを整備
 ○2Fはパソコン、TVのある多目的室、卓球台のあるホール、空調設備を整備

連絡先

生瀬ふれあい広場「くすのき会館」
 TEL / FAX 0797-26-6787

地域づくりの
課題と目標

神津地区は伊丹市東部の最先端に位置し、大阪国際空港に隣接する「伊丹スカイパーク」があります。東側に猪名川が流れ、近郊農業を主体として発展してきた地域ですが、近年では農業に携わる農家・人口ともに減少しています。少子高齢化も進行しており、これらの状況を念頭におきながら地域全体で高齢者や障がい者、子どもたちを見守っていく必要を感じています。そのために新旧住民同士の連携意識の高揚、世代間交流の促進を図っていきたいと思っています。

また、課題である助成期間終了後の活動継続の資金の確保について引き続き検討したいと思っています。

(1) ひょうたん作りで地域のつながりを

私たちの地域では空港騒音対策による伊丹スカイパークの一角を利用し、ひょうたんを育てる緑化運動に取り組んでいます。

「特色ある地域づくり」をめざし、地域内の連帯感が高まり後々に残るものは？と考え、誰でもが手軽に参加でき、また神津の地形がひょうたんに似ているという事から「ひょうたん作り」に決定しました。以来「神津地区社協ひょうたん部」が中心となり、それぞれの自宅や畑で栽培を始め、今では地域の小学生や幼稚園児も栽培・加工に参加し、個性豊かな作品を年に一度の作品展で展示。平成 24 年 1 月で 25 回を迎えました。



【コミュニティアワード出展】

(2) 伊丹スカイパーク朝市について



【朝市風景】

神津地区は古来豊かな穀倉地帯として栄えた地域で、近年農地は減少しましたが、阪神間に良質な軟弱野菜を供給しています。また、伊丹スカイパークが地域内にできたことから、スカイパークへの来園者や地域住民を対象に、神津地区特産の軟弱野菜やひょうたん加工品等を販売することで、神津の都市農業を振興するとともに地域住民同士の交流を図るため朝市を始めました。

平成 19 年 12 月に第 1 回を開催し、現在、春と秋あわせて年 6 回実施しており、地域住民に大変好評です。

これまでの
成果や
今後の予定

県民交流広場事業で拠点施設を改修し、地域の交流スペースができました。地区や世代を超えた住民の交流が活発になり地域が活性化したと思います。事業の活動についても回覧板や広報誌などで広く発信したことにより、住民のなかに地域について考える意識や機会が広がりつつあると思います。

今後はさらにムラの構造からマチの構造への質転換を図るべく新旧住民同士の連帯意識や世代間交流を促進していきたいと考えています。

拠点施設



神津地区社会福祉協議会施設

《主な整備内容:改修》

- 機械室→多目的スペース(給水設備を受水槽方式から直圧式に)
- 北側出入口をバリアフリー化 (直接出入り可能に)
- 既存の窓を改修(採光の確保)

連絡先

神津地区社会福祉協議会

TEL / FAX 072-782-1084(会長宅)

地域づくりの
課題と目標

伝統ある植木産業の土地柄、旧村地域と新住民地域とに分かれ7つの地区委員会を作り平成8年に設立しました。しかし時代の流れと共に植木畑が住宅地になり人口が増加し、小学校区単位での活動も増え、平成20年から3つの地区委員会活動に集約し現在に至ります。県民交流広場の助成が終了した後も3小学校区という広域を活かし拠点施設を利活用していく運営方法を地域一体となり考えていきたいと思っています。そのためにもまち協活動を知らない人や自治会未加入者40%のPRが課題です。

(1) 子ども達が健やかに育ち高齢者がいつまでも元気なまちづくり



【長尾すぎの子クラブ
新学年の交流遠足】

急激な人口増加に伴った多くの学童保育待機児童を、地域住民が主体となり立ち上げたNPO法人「長尾すぎの子クラブ」が解消し、現在も土曜クラブや夏休みなど独自の事業展開を行っています。親子で集う「親子ひろば」や子育てサークルを拡充させ、地域で支える子育てを実践しています。

また高齢者には介護予防を目的とした身体づくりや心のサポートをする「健康づくり教室」やサロン活動、退職者の地域デビュー等、健康と生きがいづくりを図っています。

(2) 安全で安心な暮らしができるまちづくり

災害時に一人も見逃さない地域コミュニティとして、日頃から顔の見える関係を築くことが災害に強い地域を創ると言われています。そこで、研修や訓練を重ね避難所マニュアルを作成し、現在は要援護者支援マップ・ハザードマップの作成に取りかかっています。また各指定避難所(長尾・長尾南・丸橋小学校、長尾・南ひばりガ丘中学校)に特化した避難所運営委員会の具体的な行動マニュアルの作成も行っています。

今後の地域総合防災訓練に活用し災害時の備えとして50年後、100年後へとつなぐことができればと思います。(避難所運営マニュアルについては自治会、民生児童委員、消防署をはじめ行政関係部署、社会福祉協議会、指定避難所の各学校長、有識者の皆様の協力のもと作成しました)



【避難所設営訓練】

これまでの
成果や
今後の予定

県民交流広場で拠点施設を建設し、地域住民の交流の場、地域が地域で支える場となっています。若い世代が多いので子育て支援を行うサークルやグループ活動等に役立っています。お祭りや、工作教室、自転車安全教室、親子料理教室など、子どもたちが集い明るく楽しい空間となっています。中高年には健康体操、パソコン教室、折り紙、生け花、囲碁将棋、手芸教室など、健康維持や多様な趣味の充実にも利用され施設は毎日楽しげな声が響いています。

今後はさらに多くの住民に施設を利用してもらえるよう工夫していきたいと考えています。

拠点施設



長尾ふれあいひろば

《主な整備内容:新築》

- 交流スペース・多目的スペース・料理室・バリアフリー工事
- 幼児～高齢者が過ごしやすい安心安全なスペース設置
- 備品の整備(長机、椅子、コピー機、電話機、パソコンなど)

連絡先

長尾地区まちづくり協議会
TEL / FAX 0797-20-0791(事務局)

地域づくりの 課題と目標

高砂地区は江戸時代から舟運で栄え、明治期以降は大工場の進出により工業都市として発展してきましたが、近年の少子高齢化や地区外へ人口流出などでまちなかの空洞化が進み、まちの活力が低下してきています。

このようななか地域の各種団体と連携し、歴史や伝統文化、水辺空間など地域資源を活用した賑わいのあるまちづくり、元気な地域づくりを目指しています。



【高砂染め体験教室】

(1) 古民家の活用

古民家である花井邸を「高砂来て民家」と名付け、花井邸に残されていた雛人形やかまどを使って、雛まつりやかまど体験など、昔ながらの生活体験行事を行っています。

また、一度途絶えた高砂染めの研究や体験教室の実施、秋祭りの拠点施設としての宿活用（「頭家・一ツ物」）、こども茶道体験教室や落語会「高砂来て民家寄席」の開催等、伝統文化事業の場としても活用しています。

(2) 地域の魅力再発見

講師を交えて、地域の方々が高砂の身近な歴史について語り合い、改めて高砂の良さを発見する場として「高砂歴史サロン」を定期的で開催しています。また、記憶から遠ざかっていく暮らしの中の情景や風景を募集し、写真展として「高砂来て民家」で展示し、来訪者に紹介しています。

高砂市全町をあげての「たかさご万灯祭」にも、会場の一つとして高砂染めなどの作品展示をし、県民交流広場事業の活動を紹介しています。



【たかさご万灯祭】

これまでの 成果や 今後の予定

古民家を活用した行事を企画することで、年代を超えた方々の参加を得、交流広場としての理解が得られてきています。また古民家ということで新聞報道もあり、他地域からの来訪者も多く、交流と高砂のPRの場ともなっています。

季節の模様替えや開館時の管理など、まちづくり協議会の各種団体が協力することで、団体間の連携も図られてきています。

今後、さらに多くの地域の方々に参加をしていただける事業を企画し、交流の場を広げていきたいと考えています。

拠点施設



高砂来て民家

《主な整備内容:改修》

- 古民家としての改修
- 土間の整備(展示、活用スペース)
- 会議室の設置(和室を洋室に)
- 耐震工事

連絡先

高砂地区まちづくり協議会
TEL / FAX 079-443-5306

地域づくり
の
課題と目標

地域課題は、「高齢化に伴う高齢独居世帯が増加している」「世帯の経済格差により子育て環境が変化している」「自主防災組織が衰退、消防団員数の減少で地域防災力の弱体化がみられる」ことです。

そこで、地域づくりの目標は「様々な価値観を持って住まう住民相互の交流促進」「特に高齢者や子育て世帯を孤立させない交流促進」「防犯対策の組織的な取組み」「防災意識の定着を図る取組み」「快適に暮らせる美しい住環境づくり」などを掲げています。

(1) 住民相互の交流促進活動(トーク・デーなど)

「19=トーク」にちなんで、毎月19日にトーク・デーを開催しています。地域の方が20名ほど集まり、コミセン交流ルームを井戸端のようにして、地域づくりの自由な意見交換を行うものです。

お昼を挟んでの2時間は、会費制(300円)で地域の女性がおいしいお弁当を提供してくれています。

テーマは多種多様で、毎回さまざまな話題で盛り上がります。そんな中、発案されたのが運動会での新規プログラム“震災予知・車椅子体験競技”です。瓦礫の撤去・土嚢運び・車椅子での避難など、参加した地域住民にも好評でした。



【野添コミセン運動会】

(2) 青少年の健全育成活動(夏休みのこども教室など)

毎週水曜日に寺子屋を開設、また夏休みにはこども教室として、さまざまな活動をしています。

「囲碁・将棋教室」では、年配者が小学生を巻き込み世代間交流を図っています。「手打ちうどんと座禅教室」では手打ちのうどん生地を寝かせている時間を利用し、座禅体験を組み込みました。また「守り笛作り」では小学生が防犯用も兼ねた笛を土をこねて作りました。さらに秋には「新井を歩こう!」として、小学生と大人が一緒になって、かつて農業・生活用水として利用されていた新井用水を歩き、水質調査もしながら“水のめぐみ”を学びました。



【手打ちうどんと座禅教室】

これまでの
成果や
今後の予定

- トーク・デー…「19=トーク」にちなんで、毎月19日に開催。コミセンを井戸端のようにして地域づくりの自由な意見交換を行っています。
- はりまの食を楽しもう…地産地消を基本に、地域の文化を、料理を通じて学びます。
- 小学生の囲碁・将棋教室…年配者が小学生を巻き込み世代間交流を図っています。
- 手打ちうどんと座禅教室…手打ちのうどんは生地を寝かせる時間が必要です。そこで、寝かせている時間を利用し、座禅体験を組み込みました。
- 新井を歩こう!…かつて農業用水・生活用水として利用されていた地元の水路を、子どもたちや地域の方々と散策を兼ねて歩きながら学びます。

拠点施設



野添コミュニティセン

《主な整備内容：改築》

- 庭園テラスを談話コーナーとして改修
- 1階和室をフラットフロア化して多目的室に改修
- 事務所内の改修と備品の整備(ロビーや事務所の事務器具など)

連絡先

蓮池地域づくり推進協議会
TEL / FAX 078-943-4825

地域づくりの 課題と目標

数年前、町内に喫茶店がなくなったことや町民体育祭が休止となっていることなどから、住民が気軽に集える場所づくりや住民が楽しく交流できるイベントの開催が求められています。

課題は、交流事業の継続と充実のための運営資金の確保で、ふれあい喫茶事業を中心に、継続的なふれあいの場の提供をめざします。

(1) ふれあい喫茶「どんがりん」

平成22年9月に吉川町公民館の一角を交流活動の拠点「ふれあい広場」として改修し、ふれあい喫茶「どんがりん」をオープンしました。

あわせて、喫茶の食品開発や伝統料理教室のために調理実習室を整備しました。

ふれあい喫茶は、公募によるスタッフにより月～土曜日（祝日除く）開店し、5種類の500円定食や好評の手作りお弁当を中心に、お客様のニーズや季節に応じたメニューの充実にあります。

また、喫茶店のスタッフは、子ども向けの料理・スイーツづくり教室や各種イベントにもお菓子、お弁当販売などで積極的に参加しています。



【どんがりん店内
とお弁当】

(2) フォトコンテスト(口吉川町地区共催事業)

他地域との交流事業として、平成22年度から隣接の口吉川ふれあいまちづくり協議会と共催で、地域の風景等をテーマにフォトコンテストを実施しています。平成24年度は、同協議会と共催で「春夏秋冬 花咲く風景」フォトコンテストを実施しました。合同で審査のうえ、両地域で展示し、3月の口吉川公民館文化祭で表彰式を行います。



【合同審査会のようす】

これまでの 成果や 今後の予定

ふれあい喫茶は、最初、大変苦労しましたが、定期的な利用者が増えるなど、軌道に乗ってきています。スタッフも常にコストを意識し継続事業とするべく、自主採算にむけてがんばっています。

そして、この継続性の意識を高く評価していただき、24年10月、地域コミュニティアワード2012にて、コミュニティ賞（すくすく広場部門）を受賞しました。



【アワード会場にて】

今後は、おごることなく、日ごろからお客様のニーズを把握し、応えていきながら、だれもが気軽にくつろぎ、交流していただける場所であり続けられるよう努力していきます。

拠点施設



三木市吉川町公民館

《主な整備内容:増築》

- 旧図書室の間仕切りを撤去し交流スペースとして改修
- 調理実習室について、調理台の大型化、調理機材の充実
- 団体事務室を飲食スペース・一時保育スペースに改修

連絡先

よかわふるさと交流推進協議会

TEL 0794-72-1577 FAX 0794-72-0760

地域づくりの 課題と目標

少子化の進展が小学校の統廃合に波及し、子どもは危機感を抱き「子どもの増える住みやすいまちづくり」を目指し、平成 20 年に住民参画の①子育て支援センター、②宇仁の里花畑街道、③宇仁の朝市、④ふれあいの森、⑤定住の促進のプロジェクトを、平成 23 年には⑥ふれあいの交流部会が立ち上がりました。準備から 5 年を迎えましたが地域は活性化しつつあります。

(1) 宇仁の朝市



【宇仁の朝市】

中高年の野菜づくりの技を生かし、地産地消で地域の活性化を図り、地域の皆さんとのふれあいの場として、毎週日曜日に「根日女の湯」で、毎週土曜日に「滝野温泉ぽかぽ」で「宇仁の朝市」を開催しています。

また、毎月第 4 土曜日のふれあい喫茶と共催、2 カ月に 1 回、偶数月の第 1 金曜日に芦屋の翠ヶ丘町でも開催、その他いろいろな大会にも出店し、年間約 120 回の活動を行っています。

(2) 宇仁の里・花畑街道

この地域の活性化、美化の一助になれば、との思いを込め「菜の花まつり」「コスモスまつり」等のイベントに取り組んでいます。

今年は 4 月 22 日に「菜の花まつり」10 月 21 日に「コスモスまつり」を実施しました。菜の花、コスモスの花が咲き誇るコースでウォーキングを楽しみました。

また、花畑街道沿道や各町の花壇、庭先を花いっぱいにする事業も行って来ています。



【コスモスまつり】

これまでの 成果や 今後の予定

平成 23 年に小学校の存続が決まり、平成 26 年春に新校舎が完成します。新校舎が完成しても学童が減少すれば困りますので、少子化に歯止めをかける活動を、さらに活性化しなければなりません。

これからは、各部会活動の相乗効果の高まりを期待しつつ、子育て支援の充実と都市との交流の促進、地縁者の帰郷運動など U J I ターンに取り組み、定住者を増やす環境づくりが協議会の課題と考えています。

拠点施設



子育て支援活動室(新築)

《主な整備内容:増築》

- 八王子会館(既設)内に事務室の新設
- 宇仁ふれあい交流館・子育て支援活動室(新設)
- トイレの新設

連絡先

宇仁郷まちづくり協議会
TEL 090-3059-5008(会長)
TEL/FAX 0790-45-1711(事務局)

地域づくりの 課題と目標

野里地区は、姫路城の北東に隣接し古くから開け、歴史と文化に恵まれた地域です。現在、「野里街づくりの会」や御夏清十郎顕彰会などの住民団体が積極的な活動を展開していますが、住民の社会的なつながりや交流は、環境の変化の中で徐々に弱くなりつつあることが懸念されます。

そのため、住民がこの地区に誇りと愛着を持ち、それが地域づくりの原動力になることを期待して、上記の活動団体等の活動と本ひろば事業の連携により、住民間の交流を一層活発化させようと頑張っているところです。

(1) 悠々喫茶

平成 22 年 5 月の“開店”当初から、モーニングサービス等を工夫することや、口コミにより、常連さんが増え、月 2 回の“開店日”を楽しみに、三々五々誘い合って通ってくる状況になっています。

“お店”では、わいわいがやがやといろいろな話に花が咲き、明るく楽しい雰囲気がいっまでも続きます。ボランティアの皆さんも、楽しみながらサービスを提供しており、交流が一層広がるよう頑張っています。



【悠々喫茶】

(2) 子育て活動サロン



【子育て活動サロン】

少子化と核家族化で、子育てに関して残念なニュースが流れるこの頃です。その中であって、少しでも子育ての助けになればと始めた事業です。先ずはお母さん（もちろん、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃんも OK）と子どもたちの参加増を目指し、環境と仕掛けづくりに挑戦しているところです。

参加者には、総体に好評で、建設的な意見も出ています。それらを参考に、これからも野里ひろばに子どもの元気な声が一人でも多く聞こえるように努力していきます。

これまでの 成果や 今後の予定

現在、「悠々喫茶」「囲碁・将棋サロン」「子育てサロン」「園芸グループ」が活動しています。各部門のボランティア数は変わりませんが、利用者は微増です。中でも、喫茶部門（悠々喫茶）は当初 40 名／回程度の利用者が現在 70 名で、飽和状態となっています。また、子育てについては昨年 12 月より親も楽しめるようにエアロビクスを併せて実施したところ、参加者が増加しつつあります。

本事業の持続性を確保するため、①利用者の一層の増加 ②制度の廃止を前提とした収支のバランスの確保 ③利用者増を住民交流へつなげる工夫…等の課題を設定し、今年、関係者でつくるワーキンググループによる検討を開始しました。

拠点施設



旧野里幼稚園

《主な整備内容:増築》

- 幼稚園施設の改修(トイレ、空調設備など)
- 避難所としても活用するための地下水ポンプ設置
- 備品の整備(厨房用品の整備)

連絡先

野里広場づくり事業推進委員会
TEL / FAX 079-282-1091

地域づくりの
課題と目標

私たちの地区は姫路市西部で清流夢前川を中心にある農村地域でありましたが、中心部（姫路駅）より車で約10分の立地条件に恵まれ、近年人口増が進み姫路市全人口の約2.7%が居住されています。

市内の他地区と比較しても若年層が多く、その中で新旧住民の人間関係が課題となります。皆が参加できる行事。それには地域の伝統伝承行事の継承者づくり、新しい企画行事を計画し新旧住民の交流を図るのが目的です。

(1) やわたふれあい祭り



【やわたふれあい祭り】

毎年海の記念日の前日の午後に八幡小学校の校庭を利用して、各種団体協議会（自治会・婦人会・幼小中PTA・子供会他）が中心となり、地区の住民が一堂に会し演芸会、夜店、ゲーム等を行います。

最後には、播州段文音頭で総踊り、夢前川河川敷で大花火大会を行い締めくくります。多くの人が集まり老若男女親しく日常会話をすることで交流を深めることが大事と考えています。

(2) 交流活動(トンド・タイムツ・クリーン作戦・子育て事業・

地域自然と歴史探訪)

八幡地区で昔からある伝統伝承行事（トンド・タイムツ）について、いつどこでなんのためになぜ行うのか。その成り立ちの説明と作り方を教えます。また、地域のクリーン作戦は公共物の共同清掃を通じて公德心の向上心を養います。子育ては就学前の乳幼児の子育て相談と物作りを体験します。

地域の自然と歴史探訪は地域にある山の地質研究や川の動植物調査と歴史的建造物、遺跡等を“ふるさとマップ”作製しグループに分け散策します。交流と健康づくりを目的としています。



【たいまつ行事】

これまでの
成果や
今後の予定

拠点は八幡公民館とし、行事は場所とか人数の関係で各所に分散して行う場合もあります。今では新たな交流の場として定着しており、新規に転入された方も気軽にこの行事に参加されています。

多くの地域の方が行事に参加し語り合う姿はこれからの八幡地区の発展に役立つことと思います。今後、このようにして立ち上げた“ふるさと再発見”が地域で定着することを希望します。

拠点施設



姫路市立八幡公民館

《主な整備内容:増築》

- 八幡公民館増設(談話室)
- 備品の整備(プロジェクター、ビデオ、パソコン、スクリーンなど)

連絡先

八幡地区推進委員会「姫路市立八幡公民館」
TEL / FAX 079-239-1796

地域づくりの 課題と目標

梨ヶ原と落地の2自治会で構成される梨ヶ原地区は、古代山陽道が通り、かつては宿場町として栄え、往時の住居跡や遺跡も多く発掘されています。しかし、平成22年に小学校が閉校となり、地域住民の交流が稀薄化し、活動や意識が単位自治会のみになってしまうという危惧がありました。

そこで、地域の歴史や自然を生かしたコミュニティづくりの一環として、地域推進委員会を組織。県民交流広場事業の立ち上げを契機に、両自治会が共に協力し合い、集う事ができる校区あげての活動を数多く実施する事で、地域の活性化を図りたいと考えています。

(1) 西国街道の環境整備及びハイキングの実施



【西国街道を散策】

放置されたままになっていた西国街道の倒木等を処理し、案内板を設置。三世代で歴史を楽しく学びながらハイキングができるように、定期的に環境整備、清掃活動に取り組み、交流ハイキングも実施しています。

最近では、地域住民と大阪の「西国街道を歩こう会」のメンバー約130名の方々とともに、西国街道を散策したこともあります。地元はもとより県外からのハイキング客も多く、交流の輪が広がり、訪れた皆様から感謝の言葉をいただくこともあり、とても嬉しく励みになります。

(2) ビニールハウスを活用した花、野菜の苗づくり

拠点施設の向かいにある、閉校になった小学校のグラウンドにビニールハウスを設置。地域住民の協力の下、花や野菜の苗を育苗することで、地域の交流がより深まってきました。

そして、育てた苗を格安で販売。地元はもちろんのこと、町内外から苗を求めていらっしゃる方も多く、地域の活性化に繋がるとともに、自己財源の確保にもつながっています。



【ビニールハウスで苗づくり】

これまでの 成果や 今後の予定

私たちの地域推進委員会は、円滑で効率的な事業運営のため、「歴史」、「高齢者」、「交流」、「地産地消」、「花いっぱい」の5部会で構成しています。それぞれの部会が責任を持ち、校区運動会、盆踊り大会や食育、グラウンドゴルフ大会等、地元住民が一体となった活動ができるようになり、絆が深まってきました。

今後は、地産地消部会の料理研究会と連携し、地元の農産物を利用した特産品をつくり、活動資金を確保するなど、まちおこしに活用できたらと考えています。

これから、いかにして活動をより充実かつ継続させていくかが大きな課題であり、各部会の企画運営及び推進委員の若返りを図ることも必要であると考えています。

拠点施設



町立梨ヶ原公民館

《主な整備内容:増築》

○備品の整備(ビニールハウス、歴史案内マップ・看板、パソコン、コピーなど)

連絡先

梨ヶ原小学校区GOGOプラン推進委員会
TEL / FAX 0791-55-1075(梨ヶ原公民館)

地域づくりの
課題と目標

宍粟市山崎町戸原地区は、揖保川沿いの東側に位置し、川戸、宇原、下宇原の3集落で構成され、北から南へ細長い、のどかな地域です。

年々少子高齢化が進み、コミュニティの希薄化が懸念されるなか、人と人の繋がりを強めるため、ふれあい祭り、ふれあい運動会等、全住民を対象とした地域活動を実施しています。「美しい自然と共生する、元気で安全安心な住みよい町づくり」をスローガンに、住民の連帯意識を高め、助け合う事ができる、笑顔が絶えないまちづくりを目標に取り組みを行っています。

(1) ふれあい祭り

世代の異なる住民が、楽しく交流できる場づくりとして、「ふれあいの集い」や「ふれあい喫茶」、「ふれあい運動会」等の交流事業を多く実施していますが、中でも校区あげての「ふれあい祭り」は、子どもから高齢者まで、参加者全員で楽しむ事ができる一大イベントです。

毎年11月の第1日曜日に開催していますが、平成24年度は、小学校の体育館改修工事の竣工も兼ねて、交流獅子舞、交流カラオケ大会、幼児から高齢者まで参加の作品展等、規模を拡大して実施しました。

地域や世代間のふれあいの場として定着してきており、これからもますます、交流と活動の幅が広がる催しとなるよう、創意工夫を重ね、盛大に実施しようと思っています。



【ふれあい祭り】

(2) 郷土の伝統芸能や歴史的遺産の研究とふれあい探訪

郷土史研究会を立ち上げ、文章・レイアウト・写真撮影・イラストマップ等全て自分たちの手作りで、郷土史『ふるさと戸原』を作成。大変好評で、申し込みが殺到し、瞬く間に在庫がなくなりました。

そして、この郷土史を活用し、案内板やガイドマップ「ふれあい探訪」を作り、次に、「ふれあいウォーキング」(郷土の史跡めぐり)を実施しました。幼児から高齢者まで、世代を超えた多数の参加者があり、とにかく賑やか。子どもたちは、家族や親戚、友達と、地域の歴史に触れながらの散策に、有意義な時間を過ごせたと、とても嬉しそうでした。



【ふれあいウォーキング】

これまでの
成果や
今後の予定

スロープの設置や備品の備え付け等活動の拠点も充実し、ふれあいの集い、一人暮らし高齢者の集い、防犯・防災研修会、健康体操教室等、施設を活用した活動はもとより、施設外で行う交流も定着してきました。年間約18事業を実施。豊かな自然環境と経験豊富な人材を活かし、地域の活性化を図ることに努めた結果、後継者やボランティアが育ちつつあります。

広場事業5年目を迎え、来年度以降は活動資金の確保が大きな課題です。補助金終了後も、現在実施している活動をしっかりと継続することを目標に、運営方法の検討を行い、地域住民のコミュニティづくりを推進します。

拠点施設



戸原ふれあいセンター

《主な整備内容:増築》

- 誰もが2階大ホールを利用できるように建物外部のスロープ設置
- 放送設備の設置
- 備品の整備(机、椅子、プロジェクタ、カラオケなど)

連絡先

戸原コミュニティ推進委員会
TEL / FAX 0790-62-2372

地域づくりの 課題と目標

宿南地区は、養父市の北側に位置する緑豊かな中山間地域です。地域には、但馬聖人と呼ばれた儒学者「池田草庵」の塾舎『青谿書院』が当時の姿のまま残り、歴史的・文化的にも地域の誇りとなっています。

一方、高齢化率は32.1%と少子高齢化が進み、生活環境、農地保全、伝統行事の伝承、地域自治などの集落としての維持管理が大きな課題となっています。また、この地域では過去、幾度も大規模浸水被害に見舞われ、そのたびに地域一丸となって困難を乗り越えてきました。隣人同士の励まし合いや心の通い合う地域づくりの大切さを痛感しています。

こうした中、①安全、安心な地域づくり ②伝統文化や地域特性の継承と発信 ③家族、子ども、子育て ④地域住民の連携 ⑤空き家空き地など既存資源の活用などの取組を進め、生き生きと暮らせる安全・安心な地域づくりを目指しています。

(1) 住民の憩いの場“ふれあい喫茶「ひまわり」”

拠点施設「宿南ふれあい倶楽部」に、平成23年4月、ふれあい喫茶「ひまわり」がオープンし、3年目を迎えました。現在も地域ボランティアにより、週2回運営していますが、本格的なコーヒー・紅茶が安く味わえると好評で、老若男女が集い、会話も弾んでいます。毎年、2,500人余りの方が訪れてくれていますが、これからも住民の憩いの場、交流の場として楽しんでもらえたらと思っています。



【和気あいあいいつも話が弾む】



【ふれあいの日「マカロンづくり」】

(2) 絆を深める“ふれあいの日”

毎月1回「ふれあいの日」を定め、作品づくりなどの教室・講座を開催し、高齢者や世代間の親睦、交流を図っています。

また、多世代ふれあい交流事業として「桜祭り」「盆踊り」「月見の会」など四季の行事、そして文化祭や運動会などを実施し、地域の絆を深めています。年々参加者も増え、地域交流の輪が広がりつつあります。

これまでの 成果や 今後の予定

県民交流広場事業の取り組みも3年目を迎えました。住民の憩いの場として開設したふれあい喫茶も好評です。また、「ふれあいの日」や桜祭り、文化祭、運動会など各種行事によって地域の絆も深まりつつあります。

しかし、これら活動や行事の大半は、熱心な地域ボランティアの協力によって支えられています。今後、ますます高齢化が進む中、次代の担い手（後継者）の確保が大きな課題となってきますが、住民と力を合わせて、生き生きと暮らせる安全、安心な地域づくりを目指していきます。

拠点施設



宿南ふれあい倶楽部

〈主な整備内容:改修〉

- 玄関ホールを改修し、多目的スペースと「ふれあい喫茶」を整備
- 屋外芝生広場に交流オープンスペースとして「東屋」を設置
- 備品の整備(展示パネル、厨房用品、AED等)

連絡先

宿南地区自治協議会

TEL/FAX 0796-662-3400 (宿南ふれあい倶楽部)

地域づくりの
課題と目標

余部地区は、兵庫県最北西部に位置し、北側に広がる日本海の手前には、平成22年に完成した余部新橋梁（JR 山陰本線）を望む風光明媚な農漁村地域です。少子高齢化が進む中、めまぐるしく変わる地域に対応できない高齢者や次代を担う若者をどう守り育てるかが大きな課題となっています。

そのような中、昨年7月に「道の駅あまるべ」が整備され、地域おこしの新たな拠点として大いに期待されており、いま、地域ぐるみで新たな取組を始めています。



【農園の看板・倉庫も整備】

“創る共同農園”で余部ブランドを目指す!

明日の余部を創る会の「余部ブランド開発班」では、新橋梁下国道178号沿いに整備された「道の駅あまるべ」を新たな地域おこしの拠点にと、地域の休耕田を活用した農産物の“余部ブランド”を目指しています。

まず、地区の休耕田を畑にすることから始め、腰まで伸びた雑草などを刈り取って、除草剤の散布、トラクターで耕し、新たに“創る共同農園”として整備しました。

農園には、果樹（いちじく、びわ、ぐみ、なつめ、かりん、柿、ブルーベリー）の苗木を植えました。また、余部御崎地区の特産“さんしょ”の苗木も多数植え、現在“さんしょ”は出荷できるようになりました。

今後は、地域ぐるみで無農薬・有機栽培による各種野菜の生産にも取り組み、幼稚園児・小学校児童生徒らの農業体験の場として活用していくほか、地域住民とともに収穫祭を行うなど、さらに地域のふれあい、絆を深めていきたいと思っています。



【果樹・さんしょ植え付け作業】

これまでの
成果や
今後の予定

平成22年の余部新橋梁の完成を祝う事業の一つ、「たかのすの森遊歩道」をコースとした“トライウォーク”は、その後、継続を望む声が多く寄せられ、地区内外の人たちとのふれあい交流の場として、現在も続けています。

これからも余部新橋梁をはじめ、豊かな自然や文化遺産など余部地区の魅力を外に発信するとともに、地域住民と力を合わせ、新たな余部の農産物の開発、ブランド化を通して、より絆を深め、地域の活性化を図っていききたいと思っています。

拠点施設



余部地区公民館

《主な整備内容:改修》

- 既存会議室の和室化と和室の洋室化による拡張
- 玄関の段差解消やトイレの洋式化などバリアフリー化
- 備品の整備(テーブル、プロジェクター、スクリーンなど)

連絡先

明日の余部を創る会

TEL / FAX 0796-34-0415 (余部地区公民館)

地域づくりの 課題と目標

公共交通に恵まれているにもかかわらず、少子高齢化が進み、消費生活の有り様に変化して、かつてのような人の交流が極めて乏しくなっています。人びとは交わりから遠のき、集落機能までも衰えつつあります。

地域の活性化は、まずは地域を「再発見する」ことが基本であり、そのために、「知る」「ふれあう」「学びあう」機会を創出することによって、生き生きとした「まちづくり」を目指していきます。

(1) 「知る」まちづくり

「ふるいち見る識る見知る MAP」の発行や史跡案内看板の設置により地域を知り、広報紙の発行によりまちづくり協議会の活動を紹介しています。

MAP は、ふるさとを離れて暮らしている同郷人にも発送し、郷里のまちづくりの支援の一助にもなっています。

「ふるいち塾」のフィールドワークは、地区内の集落を順次探訪し、他集落の状況を知り合わせて交流を深めています。



【ふるいち塾】

(2) 「ふれあう」まちづくり

人びとがふれあいを見つける仕掛けとして、世代間交流を目指した「通学合宿」、中高年世代の自立した生活を維持するための「生きがいデイサービス」、身体を動かし競い合える「グラウンドゴルフ」、地区の花木としている「ほたるぶくろ」「ほうきもも」などの「花作り活動」などを進めています。

全集落参加の「防災訓練」を実施することにより、日常のふれあいが命を守ることにつながることを確認しました。



【生きがいデイサービス】

(3) 「学び合う」まちづくり

生涯を通して学んでいく楽しさを味わい、明日への活力として、学びの場を設けています。情報化社会が現実のものになり、中高年も IT 社会を避けては通れないことから、実用や趣味を通して学んでいく場を提供し、「パソコン教室」や「文化活動発表会」を開催すると共に、サークル活動の支援を行っています。



【パソコン教室】

これまでの 成果や 今後の予定

協議会が主催・支援する事業に参加することによって、人びとの絆が深まり、まちづくり協議会の認識が定着しつつあります。

今日までの事業展開をより一層定着させ、さらには新たな手法も取り入れた運営を計画していきたいです。

拠点施設



古市コミュニティ消防センター

《主な整備内容:備品購入のみ》

- 拠点施設は平成 14 年新築であり、改修等を行っていない。
- 備品の整備(カラー複合機、パソコン、プロジェクター、テント、ビデオカメラ、発電機、椅子、キャビネットなど)

連絡先

古市地区まちづくり協議会
TEL / FAX 079-595-1085

地域づくりの
課題と目標

「都市と農村の交流による のどかなかどのの郷づくり」を活動目標にして、この地に存在する地域資源を有効に活用し、多くの人との交流を深め、絆を大切にみんなの広場をめざして事業展開しています。

平成 26 年の春には、多可町と結ぶトンネルが開通する予定で、姫路方面からの来丹者も期待され、楽しみにしています。

当地区も高齢化が進んでいることから、人口の流出をくい止めるためにも、若者にとってふるさとへの愛着が深まるような活気ある地域づくりに努めています。



【交流大使委嘱】

(1) 交流大使 22 名の委嘱とホームページによる情報発信

都市住民との交流のかけ橋になっていただくために、葛野生まれで、現在、都市でお住まいの 9 名と、I ターンで葛野へ転居された 13 名を交流大使として委嘱し、口コミでの広報活動や公共施設でチラシ配布等を行っていただいています。

また、葛野のイベントや名所の紹介をホームページで情報発信し、多くの都市住民の方に検索していただいています。特にカタクリやコスモスの開花時期には毎日たくさんのアクセスがあり、集客に役立っています。…「かどのの郷」で[検索](#)↗

(2) 貸農園の整備と里山でのマイ椎茸栽培、カブト虫の繁殖

1 区画 50 m²の農園を 52 区画整備し、利用者を募っています。都市部で農作業に関心がある方だけでなく、近隣の非農家の市民も対象にしており、今後利用者の拡大に努めていきます。

また、椎茸の菌打ち体験を行い、原木に名札を付け、約 1 年半ハウスで管理。椎茸が出始めると買い主にお返しし、マイ椎茸の成長を楽しんでいただいています。

さらに、里山で繁殖させたカブト虫の幼虫を学校教育に役立てたり、都市の方に提供したりしています。



【貸農園作業】



【菌打ち体験】

これまでの
成果や
今後の予定

私たちの交流広場推進委員は各集落から選出された 15 名で構成されており、皆がボランティア精神で 2 年の任期で活動しています。この事業の理解者が年々増えることにもなり、地区の活性化に寄与しています。

地区内の交流も盛んになり、継続的な都市住民との交流事業も徐々に定着してきたことから、地域住民との一体感を更に高めていきたいと考えています。

拠点施設



かどのふれあい交流広場

《主な整備内容》

- コミュニティルーム(農園利用者の休憩・地元の小会議)
- 農機具庫(農園利用者に貸し出す農機具・椎茸栽培に必要な道具)
- 椎茸ハウス(原木の散水作業等の管理をする寒冷紗ハウス)

連絡先

かどのの郷

TEL 0795-82-4224 FAX 0795-82-4124

地域づくりの 課題と目標

かつては市えびす神社で市場が開かれ、南あわじ市内外から人が寄り集まってくる地域であったが、商店街も大型ショッピングセンターへ移転するなど、寂れた町に変貌してきています。今一度、地域を見つめ直し、活性化の糸口を探りたい。

この広場の活動を通じて、地域のお年寄りや子どもたちが「えびす顔」になることを目標に取り組んでおります。



【ふれ愛太鼓】

(1) 市えびすふれ愛太鼓(子ども鳴り物教室)

市地区の活性化ののろし的な役割を果たすために誕生し、曲想も市地区の特色が出るように、市・青木地区の投げだんじりや、ふとんだんじりのリズムを織り込んでいます。

ふれ愛夏まつりなどのイベントで2曲のオリジナル曲を演奏します。また、阿波踊りの鳴り物も演奏することが出来ます。

(2) 史跡マップと史跡探訪ウォーキング



【史跡マップ】

市史談会を中心とした人たちが4年間の調査活動を行い、市地区「ふるさとの散歩道」マップが完成。小学生からお年寄りまで、マップ片手に気軽に散歩が楽しめるように、わかりやすく編集しています。

市地区の貴重な歴史・文化・史跡を子々孫々にまで、語り継いでいって欲しいと思います。

11月に、10地区を3コースに分けて、郷土史に詳しい2人の講師の案内でウォーキングを楽しみました。



【史跡探訪ウォーキング】

これまでの 成果や 今後の予定

淡路島の全島公園化で花の愛好者が増え、春花・秋花・お正月の寄せ植えは、いつも満員盛況で2日に分けて実施しています。地域間世代間の楽しい交流の場となっています。「市えびすふれ愛メッセ」の名前も覚えてもらい、活動も5年目にして定着してきたように思います。今後は、名称も新たにまちづくりの再生を協議しています。

拠点施設



南あわじ市立市地区公民館

《主な整備内容:増築》

- スロープ設置で館内バリアフリー化
- 男女別々のトイレ設置
- 調理室の改造、廊下等を展示ギャラリーに改修

連絡先

市えびすふれ愛メッセ
TEL / FAX 0799-42-5957

地域づくりの
課題と目標

郡家地区では、阪神・淡路大震災の負のイメージが未だ解消するに至っていません。震災後も各種イベントを通じて観光商業の振興に取り組んできましたが、思ったほどの成果がみられませんでした。

そのため地域固有の資産を活かし、地域が一体となって交流広場事業の推進を通して魅力あるまちづくりに取り組むことが必要です。広場事業を推進することで、地域一体となったまちづくり運動を展開し、住民の教養の向上や健康の増進を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することと同時に、安全で快適な住みよいまちづくりの形成をすることを目的としています。

(1) まちづくり人づくり事業



【国生み足湯】

国生み温泉を利用した足湯の開設を各種イベントと合わせて月2回実施しています。「国生み足湯」は地域住民の憩いの場、癒やしの場として利用され、健康維持やコミュニケーションが多いに図られています。

足湯は、頭寒足熱にとっても効果的で、子供から高齢者まで幅広く利用されています。この足湯は分解できるため、市内各種イベントにも利用されることが多いです。同時にふれあい喫茶、103 インチの大型テレビでのカラオケ、映画会、「国生み物語」の紙芝居等も上映され、好評を博しています。

(2) 三世代交流事業

竹資源の利活用と親・子・孫の三世代の交流を図るため、「三世代竹細工教室」を実施し、多くのご家族が参加され、家宝になるような竹細工も出来上がって、大変盛況でした。

看護医療大学生により年2回の健康ミニ講座を開設し、血圧測定や時節に合わせた注意点等イラスト入りの解説で子供からお年寄りまで分かり易く親切に教えていただきます。また、当地出身のお笑い芸人による「お笑い講座」も好評です。

震災イベント「1.17 防災の日」も避難訓練や炊き出し等を実施しており、追悼の日として今後も続けたいです。



【三世代竹細工教室】

これまでの
成果や
今後の予定

交流広場の取り組みがだんだんと理解されるようになり、街の中心に拠点を構えたことにより、多くの人が参加しやすく、地元の人々だけでなく、伊弉諾神宮の観光客にも、生涯学習や各種イベントと合わせ、ふれあい喫茶でコーヒーを飲みながら、足湯に浸かってもらい、観光客誘致にも役立っています。

今後、実施されていない囲碁教室や環境整備（城中山の清掃、桜の植樹等）、広場での卓球台の設置など住民の皆様が進んで参加できる魅力ある事業に取り組みたいと思っています。

拠点施設



郡家コミュニティ住宅1階

《主な整備内容:増築》

- まちづくり人づくり事業
- 生涯学習事業
- 三世代交流事業
- イベント事業

連絡先

群家地区交流広場 代表 柏木秀樹
TEL 0799-85-2121 FAX 0799-85-0900